

中本悟教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長・経済学会会長 河 音 琢 郎

中本悟教授は、2021年3月を以て定年により立命館大学教授の職を全うされ退かれます。中本悟先生は、本学立命館大学経済学部をご卒業後、一橋大学大学院経済学研究科に進まれ、1985年に博士課程を単位取得（満期退学）の後、1985年4月より3年間静岡大学に助教授として赴任され教鞭をとられた後、1988年からは24年間の長きにわたって大阪市立大学にて教育研究にご活躍の後、2012年4月より本学部に教授として赴任されました。先生は、1999年に自身のご研究を『現代アメリカの通商政策』（有斐閣）として刊行され、本書において2001年1月に京都大学にて博士号（経済学）を授与されておられます。立命館大学および経済学部においては、前任校でのご活躍の実績を土台として教育・研究の発展のためご尽力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

立命館経済学会では、先生のご功績をたたえるとともに、そのお人柄を敬愛し、『立命館経済学』において退任記念論文集を編纂、発刊することといたしました。

中本先生は、前述の博士論文としてまとめられた研究成果を土台として、国際経済学の分野において、現代アメリカ経済の構造分析に関するご研究を、多岐にわたる領域で旺盛に進めてこられました。こうした先生の膨大なご研究の成果は本記念論文集の末尾に記されています。

中本先生は、上記のような御自身の研究成果をベースとして、日本国際経済学会をはじめとした学会活動に尽力され、力強く牽引してこられました。とりわけ、日本国際経済学会では、2006年から今日までの長きにわたって常任理事を務められ、2018年からは副会長、2020年度からは会長として学会の発展に大いに寄与されています。

先生は、本学教育では、「アメリカ経済論」をはじめ、経済学部、大学院経済学研究科で多くの専門科目を担当されるとともに、初年次生対象の「経済学入門」等、入門分野の教育活動にも幅広く尽力いただき、多くの学生、大学院生を教育、指導されてきました。

先生は、こうした研究、教育面のみならず、本学の大学運営でもご活躍されてきました。2014年度から2年間は本学大学院の研究科長として大学院経済学研究科を牽引いただき、2017年度からの3年間は本学大学協議会委員、2018年度半ばからの1年半は国際平和ミュージアムの副館長として、全学的な大学運営に貢献されてこられました。

中本先生は2021年4月以降も特任教授として、本学の教育・研究を引き続き支えていただけると伺っております。先生はご壮健で、研究・教育への情熱はますます盛んであるとお見受けいたします。今後とも後進へのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。先生の益々のご健勝とご活躍を祈念し、本記念号刊行にあたってのご挨拶といたします。